

第1章 はじめに

1-1. 平戸市における夜間景観形成に向けた取り組みの重要性

今日の観光都市においては、宿泊や飲食などにつながる夜間景観形成やナイトエコノミーを喚起する夜間・早朝の観光施策が課題となっています。

また、インターネットを介した個人旅行の普及など旅行形態の変化によって、観光地には映像・画像で地域魅力を発信できる「絵になる夜景」の創出と確立が不可欠になってきました。

そういった背景と長寿命で省エネルギーなLEDの普及により、今日では多くの観光地がその夜間景観魅力の磨き上げに着手し、まちの個性を際立たせる美しい夜景による誘客と住み営むシビックプライドの醸成に取り組んでいます。

古くからの国際貿易都市であった平戸市は、多くの歴史的遺産と豊かな自然環境に恵まれた観光都市です。これまでも平戸城や幸橋（オランダ橋）、平戸ザビエル記念教会など主たるランドマークのライトアップ等を実施していますが、設備の更新や演出方法なども含め、まだまだ伸びしろがあると思われまます。

15年間にわたり「街なみ環境整備事業」で実施した修景町屋などの美しいまちなみ景観を今後も維持し、「歴史を活かした歩いて楽しいまちづくり」実現のための夜間景観形成による夜の魅力度アップや宿泊目的につながる「絵になる夜景」の創出への取り組みは、これから重要となってきます。

1-2. 平戸市における「夜間景観基本計画」及び「夜間景観ガイドライン」の必要性

市民主導で実施されている「ほのあかり事業」と足並みを揃え、官民連携し、より効果的な夜間景観の創出を目指し、行政として取り組める公共施設の整備及び改修を図るための「平戸市夜間景観基本計画」と「あかり」に対する一定のルールと誘導演出を図る観点から、「平戸市夜間景観ガイドライン」を策定する必要性が生じました。

このため、令和5～6年度にかけて「平戸市夜間景観基本計画等策定業務委託」を実施し、全国における夜間景観整備の事例紹介や商店街活性化に取り組む方々からアドバイスを受ける「ほのあかりミーティング」の実施、崎方町のオランダ塀や松浦史料博物館前などをライトアップして、崎方町の街なみから崎方公園下遊歩道を通るルートにおいて、あかりの社会実験として「ほのあかりナイトウォーク」の開催、さらには平戸市夜間景観基本計画（案）の中間報告などに対する「ワークショップ」を行い、その中で寄せられたアンケートや意見、社会実験での検証結果も参考としながら、「平戸市夜間景観基本計画」及び「平戸市夜間景観ガイドライン」を策定することとしました。

1-3. 平戸市における夜間景観ガイドラインの目的と対象エリア

1. 目的

(1) 平戸らしさを活かし、市民が誇れる夜間景観を形成する

市民が誇れる夜間景観を形成するためには、平戸固有の景観資源を活かしつつ、ランドマークや道路・公園などの公共施設の整備・改修だけではなく、まち全体で調和のとれたあかりをデザインすることが重要です。

本ガイドラインは、平戸城下旧町地区とその周辺の対象エリアにおける修景町屋などの景観資源を活かしながら、より良好で魅力的な夜間景観形成とあかりのまちづくりを官民連携によって実施するにあたっての、あかりの整備方針や照明器具の種類、照明手法等のあり方を示すことを目的としています。

(2) 市民が安全・安心に暮らせる環境を整える

魅力的な夜間景観は、景観資源を照らすあかりだけで構成されるのではなく、地域全体の雰囲気と一体となって構成され、人の視線に配慮したあかりの配置や歩いても楽しい環境づくりが重要です。

本ガイドラインは、観光目的だけではなく、市民が夜間にも楽しみながら安全で安心して回遊でき、地域全体の夜間の快適性を高めるためのあかり創出のあり方を示すことを目的としています。

(3) 宿泊観光・ナイトエコノミーに寄与する絵になる夜間景観を形成する

宿泊動機につながる魅力的な夜間景観の創出や夕刻から夜間にかけてのそぞろ歩きを誘発するためのあかりの配置計画は、観光まちづくりや夜間の経済活動にとって非常に重要です。

本ガイドラインは、平戸城下旧町地区とその周辺の対象エリアにおける修景町屋などの景観資源を活かしながら、より良好で魅力的な夜間景観形成とあかりのまちづくりを官民連携によって実施するにあたっての、あかりの整備方針や照明器具の種類、照明手法等のあり方を示すことを目的としています。

(4) 環境に配慮した照明計画の実現

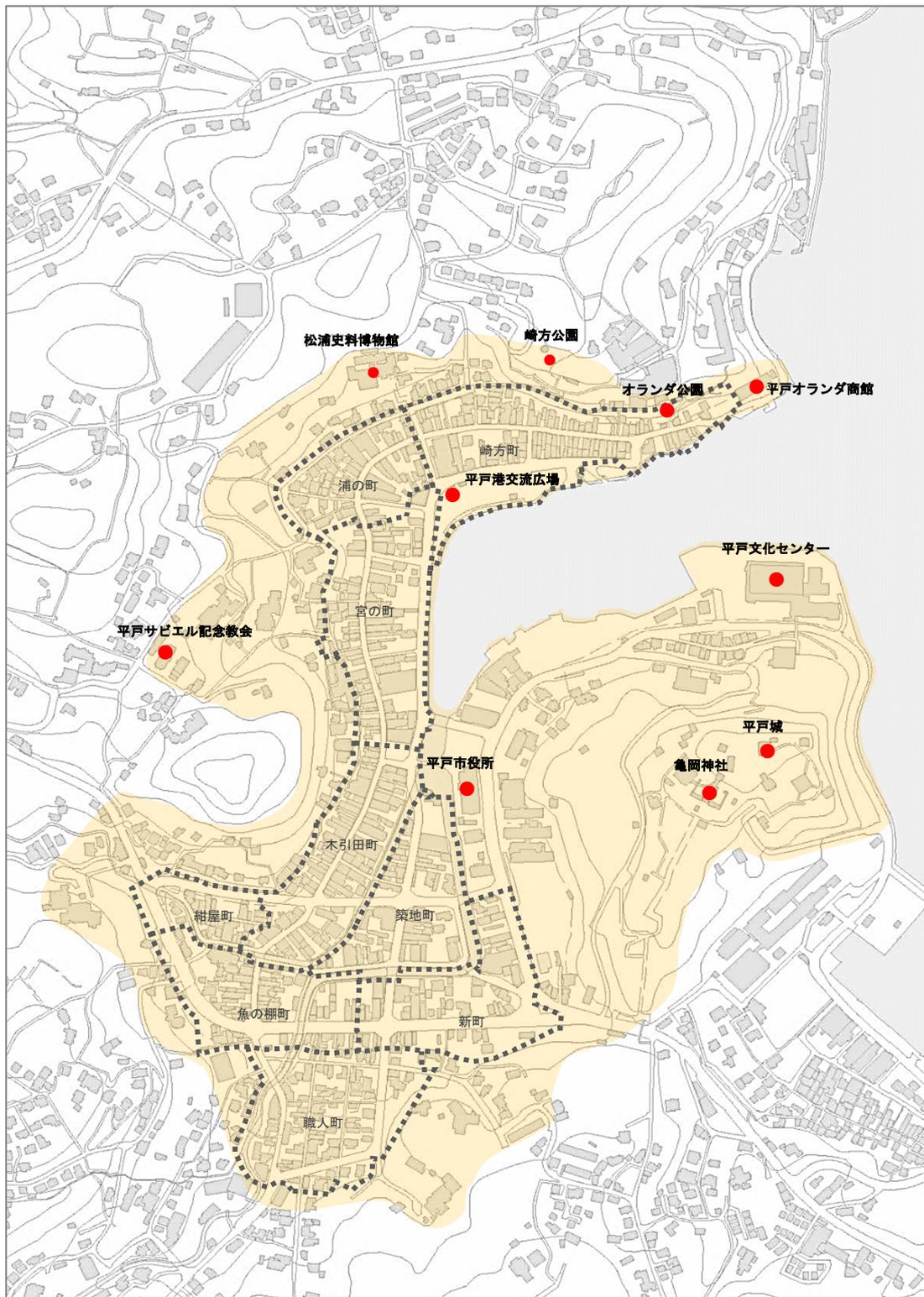
魅力的な夜間景観は、単に明るく照らすだけではなく、現地や建造物の状況を踏まえ、不快なまぶしさや色温度に配慮した十分な照明計画とライトアップが重要です。

また、照明計画を立てる際には、省エネルギー対策などにも十分な配慮が必要です。

本ガイドラインは、光害の防止や昼間の景観への配慮、自然環境への負荷の軽減を図るため、環境にやさしくて適切なあかりのあり方を示すことを目的としています。

2. 対象エリア

本ガイドラインの対象エリアは、おおむね主要な視点場（ビューポイント）である崎方公園下の遊歩道、平戸港交流広場、平戸城及び寺院と教会が見える道付近から視認でき、市内外からの来訪者が多いと見込まれる平戸湾周辺と、平戸城下旧町地区において、2005（平成17）年度から2019（令和元）年度までの15年間、街なみ環境整備事業を実施してきた崎方町、浦の町、宮の町、木引田町、築地町、紺屋町、新町、魚の棚町、職人町及びその周辺エリアとします。



1-4. 都市照明に求められるあかりの品質と照明計画のポイント

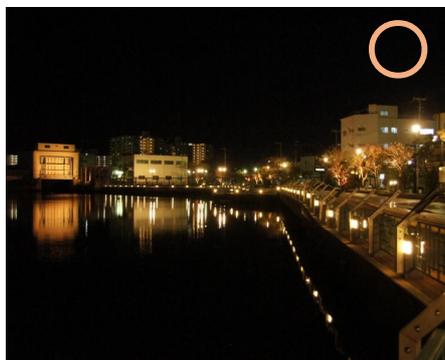
今日の都市照明においては、以下のような「あかりの品質」が求められています。

- ①あかりの色温度・・・・・・・・・・観光地・住宅地には暖かな「電球色」が最適です
- ②鉛直面の明るさ感が重要・・壁や樹木を照らすことは大きな明るさ感を創出します
- ③照明の配光を考える・・・・・・・・不快なまぶしさや夜空に拡散する光を抑制しましょう
- ④省エネルギー・・・・・・・・・・LED光源の利用、明るさの制御などが簡単にできます
- ⑤色彩の氾濫をふせぐ・・・・・・・・まちなみにふさわしい色彩の選択は重要です
- ⑥緑を活かす・・・・・・・・・・照らされた豊かな緑は、安全安心感をつくります
- ⑦点灯時間の管理・・・・・・・・・・時間による点灯管理は環境配慮の点で重要です

上記のうち、地域で良い夜間景観を実現するためには、下記の①～③の3つが特に重要です。

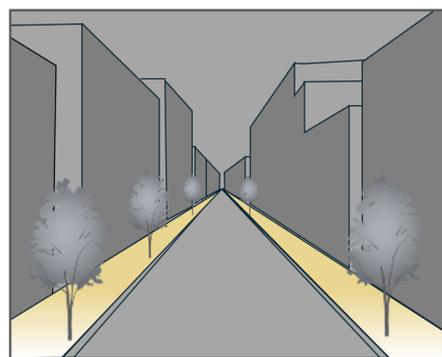
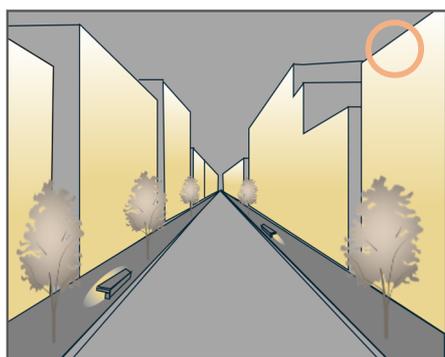
①最適な色温度

色温度とは光の色味の度合いのことをいいます。色温度が高いと白く冷たい光の色になり、低いと黄色く暖かい光の色になります。



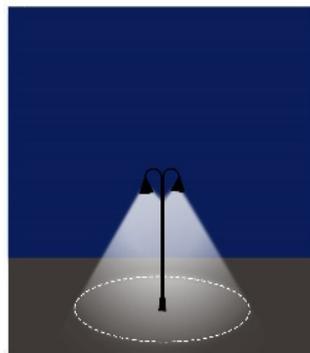
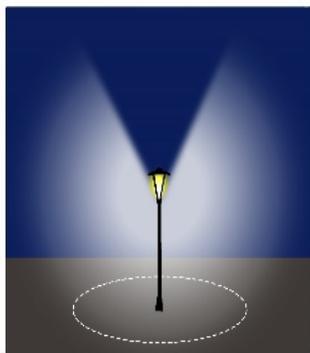
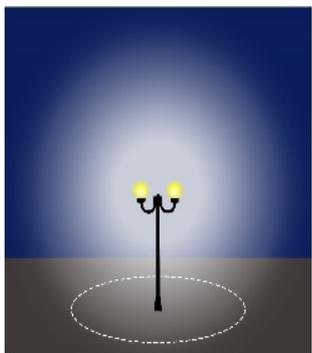
②鉛直面の輝度を重視する

同じ光の量でも、床面にあてるより、壁面にあてるほうが明るく感じます。



③グレアフリー

グレアとは、目にまぶしさを感じる不快な状態をいいます。また、グレアがあると、それより強い光しか明るく感じなくなり、その他のものは暗く見えるようになります。



← まぶしく、エネルギーロスが高い

→ 歩行に必要な十分な明るさ